

釧路湿原自然再生協議会
第38回 再生普及小委員会
議事要旨

日時： 令和4年9月29日（木）14：00～15：30
オンライン（Zoom）併用開催

1. 開会
2. 議事
 - 1) 再生普及小委員会の活動報告
 - 2) その他
3. 閉会

事務局

（進行にあたっての協力依頼）

（資料の確認）

（委員長への進行依頼）

【議事1. 再生普及小委員会の活動報告】

事務局

資料に基づき説明

（資料1. 再生普及行動計画オフィスの取組について 資料3～15ページ）

- （1. ワーキンググループ等の開催状況）
- （2. 情報発信の取組）
- （3. 体験機会提供の取組）
- （4. 市民との連携推進の取組）

委員

厳しい社会情勢の中で色々のご尽力いただいていると感心した。

委員長

コロナ禍で非常に制約が多い中で取り組まなければならず、その中でできる事柄を考え、活動のプログラムを立てている。

もう一つ非常に大切なことは市民参加であり、一般市民自ら関心を持ち、参加できる内容となるよう気をつけなければいけない。

委員

新しいページやウェブサイトを作られているということだが、学校教育の現場などからの問い合わせは増えているのか。

事務局

紹介しているプログラムは、モデル事業を実施している学校の意見やニーズに対応して作成している。問い合わせは本州からも含め今年も2～3件の電話があった。

委員長

これまでは、釧路地方や釧路湿原流域の方たちからの問い合わせが中心だろうと漠然と考えていたが、遠方から問い合わせが来るなど少しずつ広がっているようにも感じる。

委員

パネル展で発信する情報は、送る側は伝えたいことを書く一方で、見る側にそれを解釈するだけの知識が無い場合や、もっと知りたいと疑問に思うことがあると思う。展示を通じて質問などはあったか。

事務局

パネル展では常に立ち会って解説を行っているわけではないため、具体的な質問内容は把握できていないが、パネルを見た方が関係するパンフレットを持ち帰ったり、イベントに興味を持って頂いたりしている。

委員

パネル展などと比較すると、現地見学会の方が理解は進むと思うが、運営の負担が大きい。手軽に知っていただくためには、目につくもの、耳に入るものが有効である。そこから興味を持ってもらう、意識してもらう、知ってもらうことが入口だろう。双方の意思疎通ができる取り組みがこの再生普及には必要と考える。

委員

9月に釧路で日本湿地学会が開かれたが、今後はこのような場でも、釧路湿原の自然再生事業は日本の中で先駆的な取り組みであること、これまで続いてきていることをアピールし、広げていきたい。来年、東京で開催予定の湿地学会で何らかの発信をしたい。

委員

釧路観光連盟における情報発信はTwitterのみだが、今後、色々なイベントや行事があれ

ば、協力させていただきたい。

委員長

釧路湿原自然再生協議会全体の中で委員の高齢化が進んでいる。タブレットやコンピューターを使いこなしている小学生や中学生、高校生は、紙媒体ではない方が気楽に情報を得ることができる。一方、高齢者は増々難しくなってしまう。難しい問題かと思うが、少しずつでもインターネットを活用できるようにしていきたい。

委員

本小委員会では、色々な媒体、様々な機会を捉えて普及をしていくことが目的かと思う。釧路市としても、釧路地域の外から来られる方に、色々な機会を捉えて積極的に再生普及について紹介していきたい。

委員長

興味関心のある方は専門的な知見を深めようとする一方で、一般の人の関心が離れるとことがある。特に知識はないが関心が少しでもある一般の方たちを、どうやって呼び寄せ、専門家と繋げていくかが重要である。そのためには両方の視点に立ち、繋げていくことがこの小委員会の大事な役割である。少しずつ確かめながら、繋がりができるように考えていきたい。

委員

一般向けの資料は、非常にシンプルなものが求められていると考える。

環境省の制度であるゼロカーボンパークに釧路湿原国立公園の釧路市エリアが登録された。現在展示会を開催しており、ここでは湿原が果たしている役割だけに注目したパネルを作成し、展示している。

委員

イベントの募集定員は10名とあるが、実際の応募人数はどうか。

事務局

コロナ禍になってからは定員を10名としている。以前は20名やもう少し多い人数で募集を行っていた。定員10名として以降は定員を超える応募があり、抽選をかけることが多くなっている。

委員

私は普段、湿原に接する機会が多いが、時にはイベントに参加して勉強したいと思ってい

るが、定員が10名では遠慮しようとも思う。一般市民の方も、定員10名であったら多分無理だろうと思うのではないか。

釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会は、今後会員を募集する予定があるが、釧路湿原周辺の市町村職員の方にも会員になって活動していただき、自分たちの地元である釧路湿原をもっと知ってもらいたい。

委員長

仕事として登録・活動するような事態は避けなければならないが、参加してみたら面白いと感じることもあるのではないか。「あらゆる機会を捉えて」というのは、そういうことだろうと思う。

【議事1. 再生普及小委員会の活動報告】

事務局

資料に基づいて説明

(資料1. 再生普及行動計画オフィスの取組について 資料16～22ページ)

(5. 湿原学習のための学校支援WGの取組課題の推進)

委員長

今年の湿原学習のための学校支援ワーキンググループでは、小学校におけるキャリア教育と結び付ける形で行われた。モデル授業では、子どもたちが湿原に関わる様々な仕事をしている大人と一緒に行動することで、子どもたちのキャリア教育に繋がっているようであった。

モデル授業に関わることができる先生を増やしていくことを考える必要がある。参加している学校が少ないため、釧路周辺の小中学校で順番に授業ができることを目標に、参加する学校を増やしていきたい。

委員

釧路シャケの会の釧路川でのサケ稚魚の放流は、今年で38年目となった。稚魚を卵の段階で、各小学校、幼稚園、各家庭にお預けして水道水で育ててもらい5月5日に一斉放流を行っている。コロナの影響なのか私共の宣伝が不足しているのかはわからないが年々参加する団体が減ってきている。また、学校では稚魚に関わる授業の時間が徐々に少なくなっている状態である。

学校支援の関係で聞きたいが、再生普及行動計画オフィスではモデル授業に参加する学校をこちらから選定するといった方法があるのか。今後参加団体を広げるために、意識を向かせるための何か特別な方法があるのであればお聞きしたい。

委員長

学校教育の中で広めたいということか。

委員

釧路市全てに周知したい。釧路湿原への皆さんの関心も、湿原の中だけでなく釧路川を含めその上下で関心を深めていただく、広めたいと考えている。小さい頃の体験は印象に残りやすい。幼稚園、小学校での稚魚の飼育や放流体験が少しでも印象に残り、大人になっても釧路湿原や釧路川に関心を持っていただきたい。

委員長

現在、新型コロナウイルスの感染などの色々な悪条件の中で、参加する人数の増減は様々な要件が絡んでいる。何かもう少し努力した方が良いこともあるかもしれない。できることがあれば協力したい。

委員

報告があった学校支援について、苦勞して実施されており良い取り組みである。特に発表会などがあると、子供たちも目を輝かせながらやっていたのではないかと想像する。今回のモデル授業は小学校と中学校で実施しているが、釧路湿原の再生事業では非常に高度な取り組みを行っており、高校生、大学生にも向けた説明ができるのではないかと。特に大学生は、卒業後に全国に散らばることが多いのではないかと。そうしたことを踏まえ、全国に釧路湿原のファンを増やすという意味で大学生も対象にしたら良いのではないかと。

委員長

場合によっては高校生が大学に来て大学の先生の話聞くなど、そうした相互交流が当たり前にできるような形にして行くべきだろうと思う。詳しい知識を持つ先生がいるところに自由に行けるなど、そうしたことまで含んだ形を模索した方が良いと思う。

意見にあった発表会だが、機会があれば小委員会開催時に展示したい。現在の発表の内容は、パネルの形にして発表を空間化する、立体の形にするというような、とても厳しいことまで子供たちに要求している。何故このことに関心を持ったのか、どうやってそれを調べていったのか、そして予想を立てて、その結論がどうなるかを書く。大学の先生にも参加していただいて、厳しいことを批評する。そういうことによって、これまでの模造紙に貼って発表するだけのものではなくなりつつある。これを北海道でもう少し広げていければ、さらに子どもたちの学習意欲や好奇心を活性化するのではないかと考えている。色々と相談することがあるかと思うので、よろしくお願ひしたい。

委員

参加したい子どもたちが等しく機会が得られるためにどのように解決するかは一番大きな問題である。

また、もう一つの問題は釧路市内の小学校では湿原学習をする機会が全体に行き渡っていないと感じることである。子どもたちが湿原や環境について学習して壁新聞にまとめるなどして発表する場というのは非常に貴重な機会でもある。実現するために多くの方に協力してもらいたい。

先日、春採湖で城山小学校の子供たちが色々な水生生物を捕って勉強をしていたが、それは地元企業の協力で実現したことであり、他の学校も地元の協力を仰いで子どもたちに色々な事を知ってもらいたい。

委員長

募集定員の設定というのは難しい問題である。キャパシティを超えてしまうと人もお金も足りない状況になる。定員を増やせるように、活動がもっと身近になるようにメディアを通じて協力してもらえようと考えていきたい。

【議事1. 再生普及小委員会の活動報告】

事務局

資料に基づき説明

(資料1. 再生普及行動計画オフィスの取組について 資料2 3～2 4ページ)

(6. 他小委員会との連携について)

(参考資料1. カヌーガイドラインポケット版)

委員長

カヌーガイドラインポケット版は決定稿ではないが、今後いつ公開となるのか。

事務局

今年度中の地域づくり小委員会での議論を経てからであり公開時期は未確定である。

委員長

カヌーガイドラインが改訂されたので参考にしてもらいたい。他の小委員会との連携も実施しなければいけないが、また機会がある度に報告したい。

【議事2. その他】

事務局

資料に基づき説明

(参考資料2. 水循環技術資料概要版)

委員長

深刻な問題があるということが感じ取れる。水循環小委員会では、釧路湿原自然再生協議会で毎年詳しく報告をしている。興味のある方は是非協議会にも参加して、説明を聞いて質問するなどしていただきたい。

他の小委員会とタイアップするなど、手伝いながら連携を深めてお互いにとってプラスになるような形で役割を果たしていきたい。

委員

このような資料を出すことで興味を持ってもらい、自ら釧路湿原に携わっていききたいという方が増えれば良いと考えている。これからも釧路湿原の保全すべき核心部への負荷をできるだけ軽減するといったことに取り組んでいきたい。

委員

先日の事務局打ち合わせの中で、流域で大雨が降っても釧路湿原が釧路市街地を守ってくれる機能があると聞いた。やはり環境問題は非常に注目されており、釧路湿原があることによるメリットについて、もっと周知していくことが必要と感じた。

資料2の雷別ドングリ倶楽部では、昨日植樹を行なった。雷別地区の森林再生は、シラルトロエトロ川流域の水質保全などに寄与するなど、釧路湿原を守るための一定の効果があると考えている。林野庁としては、やはり木を植えていくという活動が主になるが、それぞれでできることを進め、湿原の良さをよりアピールしていくことが大事であると考えている。

委員長

雷別の森については以前は学生を連れて10名ほどの団体で、年に何回か授業で見学させていただいた。現地では所長から説明いただくなど、学生たちも興味を深めたようだ。今後も協力していただきたい。

委員

湿原について知ることの重要性を再認識した。パネル展による広報や学校支援活動、市民参加イベントの開催など、より広く多くの人に知ってもらう機会が必要である。

委員長

とにかく「市民参加」というキーワードは、この活動を立ち上げた時から掲げた言葉であり、これを外すわけにはいかない。市民参加という形の活動を維持していきたい。

委員

学校教育は非常に大事で、特に将来を担う人たちに知ってもらう機会がとても重要であるが、先生の負担は大きい。例えば、忙しい中でも学校の先生のこういう取り組みが、彼らの評価につながるようなメリットがあるなど、何か考えてあげると活動しやすくなるのではないか。解決できるような仕組づくりも何か考えていけると良い。

水循環の報告について、SWAT モデルを使って精密にモデルを組んでおり、大変な仕事であったと推察する。せっかく良いモデルができたので、例えば、将来こういう環境になるという様に、今の小学生や中学生に、今後自分たちが大人になるときにこういう世界になるというのを示せると、彼らも自分たちのことだと実感が持て、もっと違った観点で見えるのではと思った。難しいと思うが、土地利用をこう変えると水循環がこう変わるという様子なども見せてあげられると、学習もより一歩進むのではないか。

委員長

現在、義務教育の学校の教師はとても忙しいのが現実であり、そこをクリアできなければ、自然の中での環境学習などゆとりのある教育の形はとれない。そういったことについて声を上げ続けたい。

事務局

第38回再生普及小委員会を閉会とする。

(終了)